

## 活動報告

5月29日（月） 福岡県循環器病対策推進協議会

現在、健康増進の観点から、循環器病（脳血管疾患、心臓病）に対する対策が全国で強化されています。福岡県においても福岡県循環器病対策推進協議会が発足され、九州医療センターをモデル病院とし、2021年度から2年をかけて、相談窓口の開設や支援体制の強化などを図り、実績をあげています。

2023年度からは、リハビリテーション三職種も協議会のメンバーに加えていただきました。5月29日に県庁で行われた会議に参加し、循環器病対策に関する基本方針を共有しました。また、具体的な活動計画の骨子を作成するにあたり、ST士会から、「リハ専門職は、循環器病による後遺症に対して支援を行うだけでなく、予防に対しても取り組むことができる。ぜひ、この事業においてリハ専門職を活用いただきたい」とコメントさせていただきました。言語聴覚士として、摂食・嚥下やコミュニケーションの観点から県民の健康増進に向けた活動を行っていきたいと思います。



### \* 循環器病と認知症・難聴との関連

微小循環障害による血流低下は認知症と難聴の発症のいずれにも関与する因子です（共通因子論）。また、認知症に対する医学的介入が可能な危険因子が40%あるうち、難聴は8%（Livingston, The Lancet, 2020）と最も影響が大きいものです。つまり、難聴に対する早期発見、早期対応により認知症の発症を遅らせることが期待できます。

言語聴覚士として、循環器病を予防することの重要性を啓発し、後遺症に対しては適切なリハビリを提供する、また、予防の観点から、難聴や認知症に関する啓発と早期発見・早期対応に取り組んでいかなければなりません。

文責：大内田博文